

PUMPKIN (模擬原爆) の投下を 当時の日本の報道機関はどう報じたか (三)

菊池良輝

【7月29日】続

Target name : Nakajima A/C Engine Plant

(中島飛行機エンジン工場：東京都北多摩郡保谷町)

『朝日新聞東京本社(7/30)』に、「見出し(1段) B29一機帝都に投弾」とあり、以下のように記している。

二十九日午前九時二十分頃都下に侵入した B29一機は工場地帯を狙って爆弾を投下したが目標を外れて畑の中に落下した⁽¹⁷⁷⁾。

さらに、同紙は二面で「見出し(2段)・主：“一機だから” 袖：こんな油断は絶対禁物」とし、「巷間侵入する敵 B29の一機投弾は既に定石化したらしく、二十九日朝も帝都に侵入した敵一機は都下で投弾して遁走した」と記している。北多摩郡保谷町への模擬原爆の投弾である。同紙はまた、一機だからといって油断は禁物である、敵機の飛来に対し、「どこに、どこに」などと言って台所から飛び出したり、「一機の投弾でやられるのは余程運の悪い奴さ」などと昂然としている者がいるが極めて危険である、「一機のために仕事を止める必要はないが十分注意が必要である」と記している⁽¹⁷⁸⁾。

『毎日新聞[東京](7/30)』に、「見出し(1段)：都下に投弾」とあり、以下の記事がある。

【八王子】廿九日午前九時廿五分頃帝都西方より八王子に侵入せる敵 B29一機は北多摩郡某町に爆弾を投下したるも民防空の活動により火災は同十時鎮火、被害を最小限度に食ひ止めた⁽¹⁷⁹⁾。

「被害を最小限度に食ひ止めた」とあるが、

『東京大空襲・戦災誌』に、「7月29日<帝都防空本部情報二〇二号> 二十九日十三時現在

七月二十九日午前 B29 一機来襲一〇時二〇分頃都下北多摩郡保谷町上保谷瓦斯タンク傍ニ爆弾一個、(一吨級ト推定) 投下詳細目下調査中ナルモ現在迄ニ判明セル被害状況左ノ如シ

即死二名 負傷七名 全壊約二〇戸 半焼一戸 小破相当数 被害ハ落達場所ヨリ一軒程度ノ広範囲ニ亘リ発生セリ尚弾片ノ飛散箇所ニ就テ何レモ火災ヲ発生セリ」とある⁽¹⁸⁰⁾。

『写真が語る原爆投下』に爆裂写真が掲載されている⁽¹⁸¹⁾。

東京都北多摩郡保谷町は現・東京都西東京市保谷町

Target name : Wakayama Oil Refinery

(和歌山石油精製所：和歌山縣海草郡椒村)

『和歌山県の空襲』に、(要旨)「7月28日深夜、有田市初島町に所在した石油精製企業(東亜燃料工業和歌山工場)が、B-29、78機の猛爆を受け壊滅状態になった翌朝、一機のB-29が、初島町里の浄土真宗善福寺(山口良一住職)東南の低い山の斜面に大きな爆弾を投下した。直径30メートル以上の大穴があいた。時間は午前7時に近い時間帯」との記事を載せている⁽¹⁸²⁾。同誌はこの爆弾が模擬原爆であることを論証しているが、なお、同誌の著者中村隆一郎氏は、後、さらに『紀伊民報』にて「原爆投下訓練和歌山県でも」と題する論稿の中で、当爆撃が模擬原爆であったことを論考されている⁽¹⁸³⁾。

和歌山県有田市初島町は、当時、和歌山縣海草郡椒村と称した。

Target name : Maizuru Naval Base

（舞鶴海軍基地：京都府舞鶴市）

『朝日新聞大阪本社（7/30）』に、見出し（1段）「舞鶴に投弾」として以下のようにある。

舞鶴鎮守府発表（二十九日十一時）本二十九日八時三十五分敵機二機舞鶴市に來襲、内一機は撃破せるも他の一機は小型爆弾一個を海軍作業廳に投下遁走せり、我方の被害は僅少にして戦力増強には何らの影響なし⁽¹⁸⁴⁾。

この舞鶴への投弾については『朝日新聞東京本社（7/30）⁽¹⁸⁵⁾』、『毎日新聞〔大阪〕（7/30）⁽¹⁸⁶⁾』、『讀賣報知（7/30）⁽¹⁸⁷⁾』、『京都新聞（7/30）⁽¹⁸⁸⁾』等が報道しているが全くの同文である。

この爆撃は「土佐沖に來襲した米機動部隊の艦載機2機による500キロ爆弾たった1発」との記述もあるが⁽¹⁸⁹⁾、「509th CG表」に **Maizuru Naval Base** と明記されており、『写真が語る原爆投下⁽¹⁹⁰⁾』でも投下写真を掲載しており模擬原爆である。

『日本都市戦災地図⁽¹⁹¹⁾』舞鶴市では七月二十九日に一個の爆弾が舞鶴市中舞鶴の舞鶴線・中舞鶴駅の近傍に落ちたとしている⁽¹⁹²⁾。

『舞廠造機部の昭和史』に、「昭和20年7月29日、今度は本家本元の舞鶴海軍工廠が空襲を受けた。しかしそれは他の都市や工場の爆撃のように、内南洋マリアナ諸島からのB29による大規模爆撃でなく、土佐沖に來襲した米機動部隊の艦上機2機による500キロ爆弾たった1発の投下であった。にもかかわらず、その1発で海軍の技士や工員、動員学徒とその引率教師など約90名が痛ましい犠牲となった。……時に昭和20年7月29日午前8時15分ころのことであったというが、……」⁽¹⁹³⁾とある。艦載機との誤伝があるが、時間は午前8時15分ころとある。

新聞では「被害は僅少にして戦力増強には何らの影響なし」としているが、実際は以下の惨

状であった。

「舞鶴海軍工廠空襲殉職者追悼の会」の調査によると、同日の殉職者のうち八十名の名前が確認され、他に四名の所属または氏名不詳者があげられています。内訳を見ると、

京都府立舞鶴第二高等女学校教諭：一名。京都市立洛北実務女学校生徒：七名。京都市立第二商業学校生徒：三名。海軍技手、工員：六十名。京都師範学校生徒：九名。所属または不詳：四名。

ほかに、負傷者は二十九名とされていますが、一九七二（昭和四七）年八月に発行された京都府の『府政だより・資料号外』によれば、死亡者九十七名、重軽傷者は百数十名にのぼったとされ、その真相ははっきりしません。いずれにせよ、京都府下最大の犠牲者を出した空襲であったことはたしかです⁽¹⁹⁴⁾。

海軍鎮守府が爆撃され、学徒動員の高女生を含む200余名の死傷者を出したなど、当時の軍部にとって口が裂けても公表できることではなかったにしろ、被害の悲惨さと報道の空虚さとの乖離には慄然とさせられる。

Target name : Hiroshima

（広島市）

—

【8月8日】

Target name : U/I Assembly Plant, Uwajima

（目標不詳。組立工場、宇和島：愛媛縣宇和島市）

『日本都市戦災地図』宇和島市の日振新田と記された個所に爆撃箇所が図示され、「八月八日B24一機大型爆弾1発（航空隊）」とある⁽¹⁹⁵⁾。

「509th CG表」にこの日宇和島に模擬原爆を投下したことが記されており、B24とあるが明らかにB-29の誤りである⁽¹⁹⁶⁾。

『宇和島の空襲』に、「午前10時過ぎ、200キロ前後の爆弾を戎山方面に投下」とある⁽¹⁹⁷⁾。同誌第8集には、落下・弾痕として五箇所が拳がっている、とあるが⁽¹⁹⁸⁾、「1発でした（笹田

智氏）」として航空隊跡にその印を付してもいる⁽¹⁹⁹⁾。『写真が語る原爆投下』にその爆裂写真を掲載しているが⁽²⁰⁰⁾、笹田智氏の記憶が正しいようである。

なお、「耀弾」とは模擬原爆が「銀色に光る物体」「キラキラ光って落下する」ことからの命名である。

『模擬原爆と春日井』は犠牲者を18名とし、炊事担当の人ではないか、としている⁽²⁰¹⁾。

Target name : Chemical Plant Tsuruga (敦賀化学工場：福井縣敦賀市)

『日本都市戦災地図』敦賀市に8月8日、長澤地区に被弾区域として表示されている⁽²⁰²⁾。

『模擬原爆と春日井』は、「着弾地点：敦賀市東洋紡績敦賀工場（敦賀市東洋町）。爆弾は燃糸室に命中し火災を起こし、作業員一五名、動員学徒一六名、引率教員二名が死亡した」とし、『敦賀市戦災復興史』を引き、この時の爆弾を形容して「100キロ以上の大型爆弾」としている⁽²⁰³⁾。

Target name : Tokushima (徳島：徳島市)

『朝日新聞大阪本社（8/9）』「大型機の来襲圖（七日二十時一八日十八時）」に、一機のB29機が0時50分に紀伊半島熊野浦付近から侵入、淡路島を経て徳島上空から太平洋に去っており、他の一機が12時20分、徳島県海部付近から侵入、徳島上空を経て、本州を縦断、若狭湾に出、同湾上空にて旋回して後、反転、琵琶湖から紀伊半島・紀勢付近上空を経て太平洋に去っているそれぞれの経路が掲載されている⁽²⁰⁴⁾。

2機のB-29の行動と模擬原爆との関連は不明だが、当日単機で行動した2機のB29が徳島市上空を通過した事実は捉えておく必要があらう。

なお、『徳島市史』に、「七月二十四日午前一時ごろ、B-29一機が蔵本町の連隊正面近くに一トン爆弾投下、兵士七〇余名が爆死し、連

隊前の民家多数が爆風のため、ひどい損傷をうけた」とある⁽²⁰⁵⁾。これまでの日本側の記述の仕方からみて明らかに模擬原爆の投下と思われるが、「509th CG表」はじめ米軍資料には7月24日に徳島に模擬原爆を投下したとの記述はない。また、『朝日新聞大阪本社（7/25）』「B29来襲圖（二十三日十六時一二十四日十二時）」には⁽²⁰⁶⁾、24日に200機のB29が徳島県海部郡海陽町付近から侵入、徳島市上空を通過した後、2編隊に分かれ、一編隊が播磨灘を経て大阪市に出、三重県度会郡南島町付近から太平洋上に去り、他の一編隊が岡山県児島半島付近から瀬戸内海を西進、愛媛県佐多岬半島に出、豊後水道から太平洋に去っている（58BW <第58爆撃航空団⁽²⁰⁷⁾>か。実際に大阪上空で投弾したのは82機⁽²⁰⁸⁾）。

又、54機のB29が11時35分、徳島県海部郡美波町付近から侵入、徳島市上空を経た後、二手に分かれ、一編隊が兵庫県淡路島から大阪市に至り、転じて三重県南島町付近から太平洋上に去り、他の一編隊が分かれて後、岡山県備前市日生町付近を経て東進し、大阪市上空からやはり三重県南島町付近から太平洋上に去っている。

だが単機での表記はない。唯、一機のB29が4時27分、太平洋から徳島県沖の紀伊水道に入り、淡路島 - 京都府舞鶴市を経て若狭湾上空にて反転、琵琶湖を経て太平洋に出ている。少なくとも四国に入り込んだ飛行は図示されていない（地名は現在名）。

徳島市は米軍の焼夷弾による都市爆撃の対象にはなっているが⁽²⁰⁹⁾、爆撃されたのは7月3・4日である⁽²¹⁰⁾。

なお、『模擬原爆と春日井』編集子は、「JR小松港線に落ちたのがそれらしい」としている⁽²¹¹⁾。いずれにせよ全国紙・『徳島新聞』ともに7月24日（全国紙）及び8月8日（全国紙・徳島新聞）に徳島市が爆撃された記事はない。

Target name : Yokkaichi heavy Industries

（四日市重工業：三重縣四日市市）

Target name : Utsube Oil Refinery

（内部石油精製所：三重縣四日市市）

8月8日（水）の爆撃については『伊勢新聞（8/9）』が詳しく、「見出し（1段）：B29少数機で行動」とし、本文で

「八日……また午前八時頃B29一機は京都付近から伊勢湾北部、岡崎、浜名湖附近を旋回の、ち同九時ごろ伊良湖岬から脱去、さらに同八時半頃豊橋南方から侵入したB29一機は四日市付近を行動の、ち九時頃志摩半島から脱去したが、この一機は四日市および名張付近に爆弾を投下僅少の被害があった」としている⁽²¹²⁾。

『朝日新聞大阪本社（8/9）』『毎日新聞[大阪]（8/9）』『徳島新聞（8/9）』が共に爆撃記事を掲載しているが『伊勢新聞』以上の事実は伺えない⁽²¹³⁾。

「僅少の被害」と言うが、『四日市にも戦争があった 四日市空襲の記録』に、「〔第九回空襲〕八月八日、爆弾攻撃。死者二人、負傷者五六名。住宅の全半焼一四〇戸。工場被害一四工場」とあり⁽²¹⁴⁾、『三重の戦争遺跡』には、「8月8日、四日市塩浜の第二海軍燃料廠付近に1万ポンド爆弾（模擬原爆）2発投下、死者2名、重傷12名、民家倒壊140戸、工場倒壊14棟」とある⁽²¹⁵⁾。『日本都市戦災地図』四日市市に、「八月八日爆弾攻撃」との図示があって、ほぼ同様な被害状況が記されているが、「投下弾五〇〇珎爆弾二個」との記載がある⁽²¹⁶⁾。

『写真が語る原爆投下』では、目標を外れて内部川の岸に落ちた、として爆裂写真を掲載している⁽²¹⁷⁾。

『模擬原爆と春日井』では着弾地点として、四日市市千歳町（千歳橋付近）と四日市周縁部の二ヶ所を挙げている⁽²¹⁸⁾。

名張市も模擬原爆を投下された？

唯、ここで注目されるのは爆撃箇所として四日市の他に「名張」の名が挙げられていることで

ある。詳しく報道している『伊勢新聞』の他、『朝日新聞大阪本社（8/9）』も『毎日新聞[大阪]（8/9）』も四日市爆撃の後「名張附近に爆弾を投下」としている。爆弾投下の描写として四日市に投下された爆弾と同種（模擬原爆）の爆弾が投下されたような印象を受ける。

一方、米軍の「509th CG表」『USSBS報告書』にはNabariの名は見えない。

また、8月8日、「美旗駅（近鉄大阪線。名張市美旗町：菊池注）で米軍機銃撃 12名死亡、19名ケガ。蔵持の民家の納屋焼夷弾で焼ける：『名張にも戦争があった』⁽²¹⁹⁾」「名賀郡の近鉄美旗駅に小型機が機銃掃射、死傷者十数名：『三重の戦争遺跡』⁽²²⁰⁾」「午前9時頃、近鉄大阪線美旗駅でグラマン機の機銃掃射を受け、乗客8名が死亡、22名が重軽傷を負った（要旨）」また「上野行き電車が伊賀線丸山駅（伊賀市：菊池注）構内に差し掛かった際、機銃掃射を受け12名死亡、23名の重軽傷者を出した（要旨）：共に『伊賀の軍事施設と戦災』⁽²²¹⁾」「10時頃、近鉄伊賀線丸山駅構内で艦載機の機銃掃射を受け、死者12名、負傷者23名が出る。伊賀海軍航空基地へ艦載機が投弾。軍人1名が死亡する（要旨）：『伊賀上野緑ヶ丘地誌』⁽²²²⁾」との事実が伝わっている。

当日は艦載機の銃撃を受けたと思われるが、模擬原爆の投下を受けた事実は伝わっていない。

しかし、四日市に投下された爆弾（模擬原爆）と同種と思われる爆弾が名張市に投下された、との記録は記憶に留めて置く必要があろう。

【8月9日】

Target name : Nagasaki

（長崎：長崎市）

—

【8月14日】

Target name : Nagoya Arsenal, Toriimatsu Plant

（名古屋造兵工廠、鳥居松工場：愛知縣東春日

井郡鳥居松村）

この日、愛知県東春日井郡鳥居松村に所在した陸軍造兵廠名古屋工場鳥居松製造所及びその近辺（現・杖ヶ島及び上条町）に3発、同鷹来製造所に1発の計4発の模擬原爆が投下された。

鳥居松製造所を狙った爆弾の内、1発は命中し、2発が外れているが、『USSBS 報告書』でもそのことに触れている⁽²²³⁾。同報告書によると投弾時間を午後としている。鷹来製造所は直撃弾を受けている⁽²²⁴⁾。『写真が語る原爆投下』にはその時の状況が鮮明に掲載されている⁽²²⁵⁾。『日本都市戦災地図』も焼失区域・被弾区域を明示している⁽²²⁶⁾。

鳥居松製造所では、直撃された工場側で所長永久保諦一郎大佐ほか29名が殉職している⁽²²⁷⁾。

鷹来製作所の爆撃については、『写真が語る原爆投下』にその時の状況が鮮明に掲載されており⁽²²⁸⁾、『日本都市戦災地図』も焼失区域・被弾区域を明示している⁽²²⁹⁾。

当製作所の爆撃は工務掛長杉山宏少佐の適切な判断・指示により、奇跡的に一人の犠牲者も出さなかった。同少佐は弾体を「1トン級と思う」と述べると共に、「1万メートルの上空から、よくもこれ程正確にと思われる命中」と感嘆さしている⁽²³⁰⁾。

愛知県東春日井郡鳥居松村は現・愛知県春日井市鳥居松町

Target name : Toyota Auto Works, Koromo

（トヨタ自動車工場、挙母：愛知県西加茂郡挙母町）

『USSBS 報告書』に、「14日午後 Toyota Motor Company, Ltd. に3発の1万ポンド軽筒爆弾を投下した。1発は目標に着弾し、2発は目標を外れた」とある⁽²³¹⁾。『豊田市史』に、「(要旨) 八月十四日午後二時ごろ挙母に三機が飛来、大型爆弾三個を投下した。一個はトヨタ工場内に、他の二つはトヨタ自工前山社宅と今（現・今町）に落下した。矢作川対岸の下度会（現・

渡会町）では民家が全焼した⁽²³²⁾」とある。

『模擬原爆と春日井市』も触れているが⁽²³³⁾、『豊田市戦時関係資料集』に、「爆弾は三個とも一t爆弾であり、種類・性能が異なることが後日判明した。一発は矢作川右岸砂上、一発は前山住宅西（今の用水処理場付近）で、三発目は鑄造部コンプレッサー室直下瞬発爆弾と言われていた⁽²³⁴⁾」とある。

通常の爆弾とは異なるとの認識をしているし、ここでも1トンと表記している。

愛知県西加茂郡挙母町は現・愛知県豊田市挙母町

終わりに

重量4.5トンのPUMPKIN（模擬原爆）を、新聞の大半は「1トン爆弾」と表記している。当時の日本での最重量爆弾は800キロ程度であり（戦艦大和の主砲の砲弾は1.46トン）、多くの記者は800キロよりは強力のような判断があった為かとも思える。4.5トンもあろうかとは想像だに及ばなかったのであろう。

この事は関連する爆撃機でも言える。日本に約16万トンの焼夷弾の雨を降らせたB29は4～9トンの爆弾積載量を有していたが、日本の地上発進機は1トンが限度であった（二式飛行艇は約1.6トン）。日本と米国の工業水準が如実に現れている数字でもある。

新聞はもとよりそのような背景には触れず事実を追った。全国紙・地方紙共に爆撃状況はほぼ事実を捉えて報道しているが、被害状況の報道は所謂大本營的である。一方、地方紙に肉声を感じさせる報道が多い感触を持つ。過酷な状況下、良く事実を捉えようとしている、との印象をもつ記事が地方紙に多い。それは当然とは言え、全国紙が日本全般の観点から記述を進めようとするとの違いの現われとも取れる。

過酷な状況下、真摯に事実を追った記事が奇しくも当時の日本の国力を浮かび上がらせた、と言うのが全体を通しての印象である。

<注>

- (177) 『朝日新聞東京本社』昭和二十年七月三十日（月）一面2版
- (178) 『朝日新聞東京本社』昭和二十年七月三十日（月）二面2版
- (179) 『毎日新聞[東京]』昭和二十年七月三十日（月）1面2版
- (180) 編集 東京大空襲・戦災誌 編集委員会『東京大空襲・戦災誌』第3巻。東京空襲を記録する会。1973年。339頁
- (181) 前掲『写真が語る原爆投下』126-27頁
- (182) 「中村隆一郎著『非都市への爆撃 和歌山県の空襲』東方出版(株)。1989年。249頁」「中村隆一郎著『続 聞き書き拾遺 和歌山県の空襲』東方出版(株)。2000年。5頁-
- (183) 『紀伊民報』1992年（平成4年）8月8日（土）8面・同9日（日）8面
- (184) 『朝日新聞大阪本社』昭和二十年七月三十日（月）一面2版
- (185) 『朝日新聞東京本社』昭和二十年七月三十日（月）一面2版
- (186) 『毎日新聞[大阪]』昭和二十年七月三十日（月）一面2版
- (187) 『讀賣報知』昭和二十年七月三十日（月）一面二版
- (188) 『京都新聞』昭和二十年七月三十日（月）一面第五版
- (189) 編集者 岡本孝太郎『舞廠造機部の昭和史』鶴桜会。平成元年。263-68頁
- (190) 前掲『写真が語る原爆投下』128頁。
- (191) 前掲『日本都市戦災地図』78。154頁。
- (192) 現在は廃線となっている（『時刻表』21-2。財団法人日本交通公社。時刻表復刻版 終戦直後編。JTB。2000年）
- (193) 前掲『舞廠造機部の昭和史』263-68頁。なお、同工廠造兵部水雷工場付近で、動員学徒等に多くの死傷者を出したとの記述がある（舞鶴市史編さん委員会『舞鶴市史通史編』（下）。昭和57年。676-77頁）
- (194) 「監修者 高橋伸一 著者 小林啓治他『かくされた空襲と原爆』(株)つむぎ出版。1993年。70頁」
- なお、京都府立舞鶴第二高女は、現・京都府立東舞鶴高、京都市立第二商高は、現・京都市立西京高、京都師範学校は現・京都教育大である（各高校大学HPによる）。京都市立洛北女学校は、京都府愛宕郡大原村、静市野村、岩倉村、鞍馬村、八瀬村、葛野郡雲ヶ畑村、小野郷村（杉坂）の旧七カ村による、岩倉村実業青年学校と洛北青年学校が合併し、昭和19年4月1日、洛北実務女学校として誕生したもので、国民学校高等科を卒業して入学した。校舎は現・京都市立洛北中学校（左京区岩倉忠在地町）に所在した（編集 洛友会編集委員会『失われた青春-舞鶴海軍工廠女子動員学徒の記録』洛友会<旧洛北実務女学校勤労働員学徒の会>。機関紙共同出版。1988年）
- (195) 前掲『日本都市戦災地図』118。234頁
- (196) B24。アメリカが開発した4発万能機（前掲『図説 飛行機大事典』）
- (197) 編集責任者 山田勝利『宇和島の空襲』第6集。宇和島の空襲を記録する会。平成3年。10-11頁
- (198) 前掲『宇和島の空襲』第8集。「耀弾について」河野藤夫。1993年。58-60頁
- (199) 前掲『宇和島の空襲』第8集。「少年の見た耀弾（模擬原爆）」笹田智。
- (200) 前掲『写真が語る原爆投下』168-69頁
- (201) 前掲『模擬原爆と春日井』65-67頁
- (202) 前掲『日本都市戦災地図』67。132頁
- (203) 前掲『模擬原爆と春日井』50-51頁
- (204) 『朝日新聞大阪本社』昭和二十年八月九日（木）一面2版
- (205) 編集 徳島市市史編さん室『徳島市史』第一巻 総説編。徳島市役所。昭和四十八年。294頁。なお、「徳島県史編さん委員会『徳島県史』第六巻。昭和四十二年。143頁」及び「徳島空襲を記録する会『徳島大空襲』手記編。徳島県出版文化協会。1971年。291頁」が共に、「七月二十四日午前11時徳島市蔵本町連隊本部爆撃」とあり、倉庫等が撃破されたことが記されている。

PUMPKIN（模擬原爆）の投下を当時の日本の報道機関はどう報じたか（三）

- 206 『朝日新聞大阪本社』昭和二十年七月二十五日（水）一面2版
- 207 前掲『B-29 61都市を焼く』81頁
- 208 前掲『世界の傑作機ボーイングB29』渡辺洋二編「B-29出撃全リスト（対日戦）」文林堂。平成7年。56-59頁。
- 209 『TAF書』Destruction of Urban Area Targets.
- 210 前掲『世界の傑作機ボーイングB29』56-59頁。
- 211 前掲『模擬原爆と春日井』71-72頁。
- 212 『伊勢新聞』昭和二十年八月九日（木）一面
- 213 『朝日新聞大阪本社』昭和二十年八月九日（木）一面2版』『毎日新聞〔大阪〕』昭和二十年八月九日（木）一面2版』『徳島新聞』昭和二十年八月九日（木）一面（なお、『徳島新聞』は当時『毎日新聞〔大阪〕』にて印刷しており、題字が『毎日新聞〔徳島新聞・香川日日新聞〕』となっている）
- 214 前掲『四日市にも戦争があった 四日市空襲の記録』。13-17頁
- 215 編集 三重県歴史教育者協議会『三重の戦争遺跡』増補改訂版。(株)つむぎ出版。2006年。302頁
- 216 前掲『日本都市戦災地図』76。150頁
- 217 前掲『写真が語る原爆投下』170-71頁
- 218 前掲『模擬原爆と春日井』60-61頁
- 219 編集者 福地龍夫他『名張にも戦争があった』そみの会。一九九三年。195頁
- 220 前掲『三重の戦争遺跡』増補改定版。302頁
- 221 田畑孝一著『伊賀の軍事施設と戦災（もう一度たどろう戦中派からの願い）』(有)青山文芸社。2007年。97-98頁
- 222 編集 伊賀上野緑ヶ丘地誌編纂委員会『伊賀上野緑ヶ丘地誌』伊賀市東部地域住民自治協議会。平成20年。41頁
- 223 前掲『USSBS報告書』P.101
- 224 編者 名古屋陸軍造兵廠史編集委員 加藤勇他『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空工廠史』名古屋陸軍造幣廠記念碑建立委員会。昭和61年。467-528頁。
- 225 前掲『写真が語る原爆投下』202-04頁
- 226 前掲『日本都市戦災地図』58。114頁
- 227 前掲『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空工廠史』494-95頁
- 228 前掲『写真が語る原爆投下』200-01頁
- 229 前掲『日本都市戦災地図』58。114頁
- 230 前掲『名古屋陸軍造兵廠史・陸軍航空工廠史』520-21頁
- 231 前掲『USSBS報告書』P.13
- 232 編集 豊田市教育委員会 豊田市史編さん専門委員会『豊田市史』三巻（近代）。豊田市。昭和五三年。844頁。
- 233 前掲『模擬原爆と春日井』59-61頁
- 234 編集 豊田市戦時資料調査会 成瀬釦男『戦争はもういや』『豊田市戦時関係資集』第二巻 戦時体験記録編。豊田市教育委員会。昭和六三年。46-49頁。なお、同書、加藤甫『終戦前日と今日（12-13頁）』に、「（爆撃により生じた）堤防下の落下穴は10~15m以上であり、……川遊びをしていた方が川面に逃げたため爆風で無残に死亡された」とある。

<結>

PUMPKIN（模擬原爆）の投下を当時の日本の報道機関はどう報じたか（三）

【PUMPKIN（模擬原爆）投弾地表】

1945（昭和20）年

月 日	Target name (直訳したもの)	被 弾 地	死傷者数
7 20	Otsu 茨城縣多賀郡大津町	不 明	
7 20	Tokyo 東京都	東京都日本橋区呉服橋と麹町区八重洲橋中間の堀内 (現・中央区八重洲一丁目付近)	死者3・重傷2 軽傷1
7 20	Taira 福島縣平市	平市下高久地区：新堤ため池 (現・いわき市平下高久)	死者1
7 20	Light Industry Fukusima (福島<市>軽工業) 福島市	福島縣信夫郡渡利村 (現・福島市渡利町：渡利公民館)	即死1・負傷2
7 20	Shinagawa Manufacturing Plant (品川製造工場) Dropped Bomb at Sea	(海上投棄)	
7 20	Atagi mfg. Co., Tsugami (津上安宅製作所) 新潟縣長岡市	新潟縣古志郡上組村左近 (現・長岡市左近)	即死4
7 20	Taira 福島縣平市	不 明	
7 20	Fujikoshi Steel, Higashi-Iwase (不二越製鋼, 東岩瀬) 富山市	富山市中田：不二越製鋼東岩瀬工場付近 (現・富山市中田：中田公民館)	
7 20	Nichiman Aluminum Co., Toyama (日満アルミニウム会社, 富山) 富山市	富山市森 (現・富山市森：岩瀬スポーツ公園北)	
7 20	Nippon Sood co., Toyama (日本曹達, 富山) 富山市	富山市下新：富岩運河岸 (現・富山市下新西町：富山製紙)	
7 24	Sumitomo Copper Refinery, Niihama (住友銅精錬所, 新居浜) 愛媛縣新居濱市	新居濱市惣開町：住友化学新濱製造所水晶工場 (現・新居浜市惣開)	死傷者8
7 24	Sumitomo Aluminum Co., Niihama (住友アルミニウム会社, 新居浜) 愛媛縣新居濱市	新居濱市菊本町 住友化学軽金属製造所：第三精錬工場	重軽傷者28
7 24	倉敷織絹〔倉敷航空化工(株)〕 (愛媛縣西條市) (注)	西條市朔日市：倉敷織絹〔倉敷航空化工〕 (現・西条市朔日市：クラレ西条工場)	軽傷7
7 24	I. G. R. Shops (国有鉄道販売所) 兵庫縣神戸市	神戸市須磨区若木町：山陽電鉄東須磨駅北	
7 24	Kawasaki Locomotive Car Co. (川崎機関車車輛会社) 兵庫縣神戸市	神戸市中央区川崎町：川崎車輛機関車組立工場	重傷後死亡3 負傷30余

PUMPKIN（模擬原爆）の投下を当時の日本の報道機関はどう報じたか（三）

7	24	Mitsubishi Heavy Industry (三菱重工業) 兵庫県神戸市	神戸市兵庫区田崎町：三菱重工神戸造船所	
7	24	Kobe Steel Works (神戸製鋼所) 兵庫県神戸市	不 明	
7	24	Heavy Industry Yokkaichi (四日市重工業) 三重県四日市市	四日市市千歳町：第二海軍燃料住宅	死者2・負傷者4 (3)
7	24	Toyo Rayon Plant, Sakai (東洋レーヨン製造工場、堺) 滋賀縣大津市	大津市北大路：東洋レーヨン滋賀第一工場 (現・大津市園山)	爆死者14・重傷50 軽傷200余
7	24	Ogaki 岐阜縣大垣市	大垣市高砂町：岐阜縣農業会安八支部水門緑	即死20・重傷約100
7	26	Kashiwazaki 新潟縣柏崎市	新潟縣刈羽郡西中通村長崎地内 (現・柏崎市長崎)	爆死2・重傷2 軽傷4
7	26	U / I 37-43N 139-31E (北緯37度43分 東経139度31分) 新潟縣東蒲原郡両鹿瀬村 (上記経緯度：阿賀野川左岸)	新潟縣東蒲原郡両鹿瀬村丈山地区 (阿賀野川右岸・向鹿瀬國民學校近傍) (現・同郡阿賀町向鹿瀬)	重傷1
7	26	Hitachi Copper (日立精銅所) 茨城縣日立市	日立市白銀町：日鋳銅精錬所 日立山手工場正門前道路	
7	26	Taira ind. Area (平工業地帯) 福島縣平市	平市 平市立第一國民學校 (現・いわき市平字揚土。いわき市立第一小)	殉職3 負傷者53
7	26	Shimada 静岡縣志太郡島田町	静岡縣志太郡島田町扇町：普門院付近 (現・島田市扇町)	死者49 負傷150
7	26	Nagoya 愛知縣名古屋市	名古屋市昭和区妙見町：名古屋第二赤十字病院角	死亡2・負傷6
7	26	Hamamatsu 静岡縣濱松市	濱松市將鹽町 (現・浜松市將監町)	死者1・重傷1
7	26	Toyama 富山市	富山市豊田本町	死者6・重軽傷50余
7	26	Osaka 大阪市	大阪市東住吉区田辺本町	死者4・行方不明6 負傷者85
7	26	Yaizu RR Yards (焼津鉄道操車場) 静岡縣志太郡焼津町	静岡縣志太郡焼津町中港：杉山喜作方裏手松林 (現・焼津市中港)	
7	29	Ube Nitrogen Fertilizer Co. (宇部窒素肥料会社) 山口縣宇部市	宇部市西海岸通 (現・宇部市新町：オオバヤシスポーツ斜前道路上)	死亡10・ 他に氏名不詳1
7	29	Ube Soda Co. (宇部曹達会社) 山口縣宇部市	宇部市沖宇部：宇部曹達工場直撃 (現・宇部市新町：セントラル硝子)	死亡(氏名不詳)2

PUMPKIN (模擬原爆) の投下を当時の日本の報道機関はどう報じたか (三)

7	29	Nippon Motor Oil Company (日本発動機油会社) 山口縣宇部市	宇部市東海岸通：梶山文作商店直撃 (現・宇部市東本町)	死亡4 他に氏名不詳1
7	29	Koriyama Light Industry (郡山軽工業) 福島縣郡山市	郡山市麓山：中島飛行機扶桑130工場北側田圃	爆死15
7	29	Koriyam Marshalling Yards (郡山操車場) 福島縣郡山市	郡山市燧田：國鉄郡山駅便所前ポイント付近	死者24 重軽傷204
7	29	Nakajima A/C Engine Plant (中島飛行機エンジン工場) 東京都北多摩郡保谷町	東京都北多摩郡保谷町：東京瓦斯保谷供給所 (現・東京都西東京市保谷町)	即死2・負傷7
7	29	Wakayama Oil Refinery (和歌山石油精製所) 和歌山縣海草郡椒村	和歌山縣海草郡椒村：浄土真宗善福寺東南 (現・有田市初島町里地区中村)	
7	29	Maizuru Naval Base (舞鶴海軍基地) 京都府舞鶴市	舞鶴市中舞鶴町：舞鶴海軍工廠造兵部第二水雷工場	死亡97 重軽傷百数十
8	6	Hiroshima 広島市	細工町：島病院上空	原爆
8	8	U/I Assembly Plant, Uwajima (組立工場, 宇和島) 愛媛縣宇和島市	宇和島市坂下津：松山海軍航空隊宇和島分遣隊	死亡18
8	8	Chemical Plant Tsuruga (敦賀化学工場) 福井縣敦賀市	敦賀市津内町：東洋紡績敦賀工場 (現・敦賀市東洋町)	死亡33
8	8	Tokushima 徳島市	不明	
8	8	Yokkaich Heavy Industries (四日市重工業) 三重縣四日市市	四日市市千歳町：千歳橋付近	死者2・負傷者56 (内、重傷12か)
8	8	Utsube Oil Refinery (内部石油精製所) 三重縣四日市市	四日市市塩浜町：内部製油所	
8	9	Nagasaki 長崎市	松山町：平和公園中心碑南南東	
8	14	Nagoya Arsenal, Toriimatsu Plant (名古屋造兵工廠, 鳥居松工場) 愛知縣東春日井郡鳥居松村他	①東春日井郡鳥居松村：鳥居松製造所 (現・春日井市王子町：王子製紙工場内他)	殉職29
			②東春日井郡鳥居松村：鳥居松製造所付近 (現・春日井市上条町)	
			③東春日井郡鳥居松村：鳥居松製造所付近 (現・春日井市市杖ヶ島町)	
			④東春日井郡田楽：鷹来製造所第三工場 (現・春日井市鷹来町)	死傷者ナシ

PUMPKIN（模擬原爆）の投下を当時の日本の報道機関はどう報じたか（三）

8	14	Toyota Auto Works, Koromo	①西加茂郡舉母町下市場：トヨタ自動車工場 (現・豊田市トヨタ町)
		愛知県西加茂郡舉母町	②西加茂郡舉母町下市場：前山住(社)宅付近 (現・豊田市明和町)
			③西加茂郡舉母町今：矢作川と巴川の合流点付近 (現・豊田市今町)

【当時の新聞記事及び後の刊行書籍からパンプキンを想定させる爆弾が投下されたように思えるもの】

月	日	被弾地	記載新聞・刊行物
7	24	徳島市蔵本町：連隊正面	【『徳島市史』昭和48年】
7	26	大阪市北西部	【毎日新聞 [東京]：20.07.27】【京都新聞：同】【神戸新聞：同】等
8	8	三重県名張市	【朝日新聞大阪本社：20.08.09】【毎日新聞 [大阪]：同】【伊勢新聞：同】

本文：注153・154・155・205-210・212・213参照

(注) 上記米軍資料には記載がないが、パンプキンを投下されたと公表されているもの（「軽傷7」は『日本都市戦災地図』西條町による）。

「工藤洋三・奥住喜重『写真が語る原爆投下—ヒロシマ・ナガサキをもたらした側の全記録』2007年。102-03頁」参照

【出典】

・ Target name

Supplementary Table. Twentieth Air Force Special Bombing Missions 509th. Composite Group, *Twentieth Air Force: A Statistical Summary of Its Operations Against Japan*, Confidential.

・ 被弾地比定地：「本文参照」。なお、関係各地図書館の教示を頂戴した。紙上を借りて謝意を表したい。